

「病気を治すのは自分自身」という言葉が

胸に沁みた方の手記

「リウマチ・ヘルペス（治療開始から1年1カ月の途中経過）」 匿名希望 38歳

2015年12月19日

《松本医院来院まで。私はこうしてリウマチになった》

平成26年5月、左中指の第2関節が腫れ、痛みと腫れがずっと治らない状態が続きました。（バレーボールをした時からだったの突き指がずっと治らないと勘違いをしていました。）その時くらいから、朝のこわばりやイライラ、だるさでやる気が起きない等の症状がありました。

平成26年8月、右膝が痛み始めましたが、「そのうち治るだろう」と様子を見ることにしました。しかし、仕事（保育士をしています）で子どもをおんぶしたことをきっかけに、ひどく腰と右膝を痛めてしまいました。整体に行くと、腰骨が4本ずれていて、ぎっくり腰に近いと診断されました。

平成26年10月、膝に水がたまってしまったため整形外科を受診したところ、変形性膝関節症と診断され、様子を見るように指示されました。指も膝も全く良くなり悪くなっていく一方でした。そのうち肩も少し痛くなってきたので、また整体に行きましたが、ある日、両肩が激痛に襲われ、眠れないほどになりました。その日は、普段から生理痛の度に飲んでいて市販の痛み止めのイブを大量に飲みましたが、全く効き目がなく、「いつか痛みは消えるはず」とリラクゼーション音楽を聞いて眠りました。もちろんすぐに目が覚めました。が……。その痛みは3日後くらいにようやく治まってきました。（何年も常用してきたこのイブも、免疫を抑えてリウマチの原因の一つになっていたことがわかったので、それからは一度も服用していません。）

肩の痛みが尋常ではなかったのも、母に相談すると、「特にリウマチの家系ではないけれど、リウマチの検査をしてみた方が良い」とを言われ、初めてリウマチとはどんな病気であるか調べてみたところ、全ての症状が当てはまり、検査をせずともリウマチだろうと確信しました。

平成26年11月、整形外科にてリウマチの検査をし、リウマチと診断され

ました。(※リウマチ因子は135.7でした。)その2週間後、紹介された別の病院でも検査をしましたが、数値は短期間でどんどん上がっていました。(※リウマチ因子：169、CRP：0.46、MMP-3：198)

H26年12月、MRIの結果、「膝の骨に炎症があるため、何も治療をしなければ、1年で膝関節が破壊され、人工関節を入れることになる」との診断を受けました。ものすごくショックを受けました。そんな大ショックを受けているのに、治療内容は、免疫を抑える薬を服用し、生物学的製剤というわけのわからない注射(ヒュミラ)を一生続けるというものだったので、その病院はやめて漢方医を探しました。その時の医者は東大出身の女性の方で、「注射はみんなやっていますよ」と言っていたのが印象的です。

ただ、症状はどんどん悪くなっていき、立ち上がれない、起き上がれないという状況になってしまいました。その時ばかりは、(頭ではもちろん良くないとわかってはいましたが、)感謝の気持ちで処方されていたステロイドや、リウマトレックスなどを服用しました。

平成26年12月末、漢方医からは、「西洋医学による治療と並行しなさい」と言われました。西洋医学の大きな病院にも行ってみましたが、内容はたいして変わりませんでした。今度の医者は、「リウマチより高血圧の方がよっぽど大変な病気だ」と言っていたのを覚えています。そして、主人の後押しもあり、ネットで見つけていた松本医院を受診しようと決意しました。※リウマチ因子：436、CRP：2.0、MMP-3：111

今振り返ると、平成26年5月に指関節が痛くなる前、結婚して1年目の頃(平成22年)に適応障害になったことがそもそもの始まりだと思えます。私は自分が結婚生活に向いていなかったことで適応障害を発症したにも関わらず、そこでしっかりと自分の心や主人と向き合うことをしませんでした。ごまかし、ごまかしでストレスを抱え続けてきたことが、私がリウマチになった一つ大きな原因としてあると思います。リウマチは心の病気と松本先生もおっしゃっておりますが、その言葉は正しいと確信しています。

もう一つ大きな要因は、5歳の時の大やけどです。どんな治療をしたか今では遡りませんが、おそらく大量のステロイドを使用したと思います。松本先生がヘルペスについておっしゃっている通り、私は既に水痘にかかっていたので、この時に元々あった水痘・帯状疱疹ウイルスを全身に増やしたのだと思っています。そのために小さい頃から疲れやすく、いつも血流が悪かったのだと確信しています。長年持ち続けていた、疲れやすいのはなぜだろう？血流が悪いのはなぜだろう？という疑問が解消されたときには、心が晴れる思いでした。

《松本医院通院から完治まで。あと少し!》平成27年1月～12月

平成27年1月、初診では松本先生にはお会いできず、副院長先生に診察していただきました。来院前までの検査結果を見て、「バリバリのリウマチです。」と言われました。なぜここに来たのかと問われたので、病気は免疫を上げて治すものと思って調べていたところ、松本医院にたどり着いたこととお話しました。

漢方薬、お灸、漢方風呂の浴剤をいただいて帰り、漢方を飲み始めると1週間後には、信じられないくらい体が軽くなりました。その時は「西洋の薬をあまり飲んでいなかったのもう大丈夫だ」と勝手に思い込み、「漢方風呂もお金がかかるし」とか「お灸も毎日でなくてもいいだろう」と甘い考えでいました。そして、リバウンドはいつだろう？クラススイッチってこれかな？とか自分はそんなに酷くならないのではないかと考えていました。少し痛みが増すと、次は良くなっているだろうと思い込んでいました。

しかし、3ヶ月経って全身が軽くなっても、膝の大きな熱をもった腫れは全く変わりませんでした。そして、「自分は西洋の薬をそんなに飲んでいないのになぜだろう？」と考えていましたが、その理由には気が付かないまま、知人の勧めによりホメオパシーに行ってみることにしました。

ホメオパシーについては、松本先生が、花粉症はホメオパシーでは治らないという記述で触れていますが、ご存知の通り、要はカウンセリングをしてレメディー（薬草のパターンの入った砂糖玉）を処方するというものなのですが、科学的根拠はありません。

※ホメオパシー（健康な人間に与えたら似た症状をひき起こすであろう物質を、その症状を持つ患者にごく僅かだけ与えることにより、体の抵抗力を引き出して症状を軽減するという理論に基づく療法）

結局、計5回ホメオパシーに通いましたが、大きなポイントは、科学的根拠がない分、ホメオパス（ホメオパシー「治療」を専門に行う者）の力量で変わってくるということです。自分自身の心や状態で出会うホメオパスも変わってくるのです。ホメオパスの言っていることが理解できるようになる＝心の状態が上がってきているとも言えます。つまり、症状の原因を内側から見つけ、“病は気から”の言葉のように、“気持ち”を治すことで、自然治癒力を高めて病気を治すということだ」と考えています。そして今は、自分自身の心を見つめ直すことと松本理論を深く理解するために、私にはホメオパシーが必要であったと受け止めています。

そして、松本先生がおっしゃっていることと、自分がリウマチになった理由、本当に治すにはどうしたら良いかがわかりかけていた頃、いつものお電話で先生がおっしゃる「治すのは君自身やで」という言葉が深く胸に沁みたのを覚えています。

そして、10月の3度目の通院では、「出てきているね」と言われました。それは、首や顔の赤いポツポツの事でした。自分ではあまり気が付いていなかったもので、言われた時はとても嬉しかったです。私にもようやくリバウンドがき

たのです。私の場合は、膝下と背中がとても痒くなりました。さらに、「微熱もヘルペス」と先生がおっしゃっているように、微熱が出た時ヘルペスと体が戦っていることを実感できるようになりました。ヘルペスが勝っていると肩がキーンと痛むことがあります。負けるな！免疫頑張れ！と思っています。

あと最後まで頑固なのは手首です。左手首が腫れてあまり曲がらない状態なのですが、これも、ステロイドを多く使った人は手首が治りにくいとおっしゃっていることそのままなので、私って、先生の教科書のように思いました。

現在12月、抗ヘルペス剤12錠に増やしています。膝もようやく熱を持たなくなってきたので、失ってしまった筋力を取り戻しつつ腫れが引いていくのを待ち、あともう少しというところだと思っています。

本当にいつもお薬を送っていただきありがとうございます。次にお会いする時には、治りましたとお伝えしたいです。

《松本医院にかかってからの数値》

	1/22	4/28	10/13
CRP	1.45	1.36	2.80
血沈	123	99	51
RF	194		113
MMP-3	154.4	168.8	288.5
VZV	8.0		14.9